

# 地域・産官学が相互作用の中で、子どもの「伝え合う力」「かかわり合う力」の育成



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
新潟市立 新潟市立葛塚中学校	葛塚中学校区学校運営協議会 令和2年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 3名 3名	葛塚中学校地域学校協働本部
新潟市立 新潟市立葛塚東小学校	葛塚中学校区学校運営協議会 令和2年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 3名 3名	葛塚東小学校地域学校協働本部



## 取組の背景及び目標や目指す姿

### 背景

葛塚中学校区には、福島潟を中心とした豊かな自然、灯籠入舞で有名な葛塚まつりなど歴史があり、そこに新しい文化が交わる中で、葛塚地域が発展している。地域の特色を生かし、生徒、学校、地域などが互いにつながり、支え、高まり合うために、①肯定的未来志向を大切に地域とともにある学校づくり、②地域の方と互いの意見の尊重、③持続可能な地域の担い手の育成を目標にした。この目標のもと「伝え合う力」「かかわり合う力」の向上に、小中が連携して取り組んでいる。

### 目標や目指す姿(学校)

「伝え合う力」「かかわり合う力」を高めた児童・生徒

### 目標や目指す姿(地域)

様々なコミュニティとの協働を通じた、「伝え合う力」「かかわり合う力」の育成



## 葛塚中学校区学校運営協議会 の特徴

### 委員の立場や属性等

- |                                       |                                    |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動推進委員 | <input type="checkbox"/> 青年会議所委員   |
| <input type="checkbox"/> 保護者・PTA関係者   | <input type="checkbox"/> 商工会・企業関係者 |
| <input type="checkbox"/> コミュニティ協議会委員  | <input type="checkbox"/> 大学教員      |
| <input type="checkbox"/> 児童センター、児童館委員 | など、計 15名で構成                        |
| <input type="checkbox"/> 公民館・児童施設委員   | 年間平均 4回程度開催                        |

### 効果的な運営の工夫

協議会では、「①大人の委員による学校運営に関する協議」「②子どもと大人を交えた地域を語る協議」の2つの柱を重点としている。①では、事前に運営委員会(小中校長、教頭、地域教育コーディネーターなど)が集まり、当日の議題について検討している。②では、小学生の立候補者、中学生の生徒会リーダー、立候補者の生徒が代表委員になり、担当職員と子どもたちで当日の協議会で話し合う議題を検討している。こうすることで、当日の会が円滑に進んだり、子どもたちが協議会でファシリテーターを務めたりして、和やかな支持的風土のある雰囲気大人と子どもが同じ目線で地域について語り合うことができています。



## 特徴的な取組と成果・効果

### 学校運営協議会

「伝え合う力」「かかわり合う力」の育成のために、学校運営協議会で子どもたちが大人とかかわることが大切であると考え、子どもたちが協議会に参加する形態にした。また子どもたちに大人や地域に積極的にかかわらせるために地域との話し合いではファシリテーターを務めさせることにした。



生徒が司会を務める運営協議会

### 地域学校協働活動

地域行事の内容を、コミュニティ協議会、ロータリークラブ、商工会、PTAと、子どもたちが検討した。ファシリテーターは子どもが務めた。そして学校の屋上からLEDスカイランタンをあげるという、子どもの発想を生かした「トライアングルプロジェクト」が生まれた。



トライアングルプロジェクトポスター

### 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

目的を共有するために、目指す子どもの姿、地域の姿を理解し合い、評価についても、学校評価の報告、熟議、協議をコミュニティ・スクールの活動の一環に設定した。また子どもも参加する地域を語る会を開催し、対話を大切に。そして地域の強みである地域行事の一つのきっかけとして、あらゆる立場の方がつながる工夫をした。学校の枠を超えた機関からの資金支援、活動のyoutube配信など、学校だけではできない活動をサポートしていただいた。

## 取組

## 成果・効果

	指標1		指標2	
	とてもそう思う	そう思う	とてもそう思う	そう思う
全校生徒(全体割合)	総合的活動、地域活動で、コミュニケーション能力や協調性(かかわり合う力)を高めることができたと思う。			
R2	54%	29%	30%	34%
R3	51%	35%	37%	35%

生徒を対象にしたアンケート結果から、「かかわり合う力」を高めることができた生徒の割合が、令和2年から3年にかけて、83%から86%に上昇した。地域に愛着がもつことができた生徒の割合も、64%から72%に上昇した。

### 【学校運営協議会に参加した児童・生徒の声】

・私たちが考えた企画がみんなを楽しませ、みんなの笑顔をつくるきっかけになってくれるとうれしいです。私が中学生になって、コミュニティ・スクールがあったら、6年生のみんなを引っ張っていけるようにしたいです。

・小学生の意見がとてもよく、参考にしたい・実践したいと思うことが多くありました。「地域をこうしたい、これをやりたい」などの本音が聞けたので、このような言える場があればもっと言いたいです。

### 【委員の方の声】

・子ども双方から熱意が強く感じられ、コミュニティ・スクールが地域活性化の一要因となる可能性を感じた。